

発掘調査

平成21年度(2009)から山口市教育委員会によって発掘調査が始まり、これまでに「凌雲寺跡1」「凌雲寺跡2」「凌雲寺跡3」と調査報告書が刊行されています。(※吉敷地域交流センターでも閲覧できます)

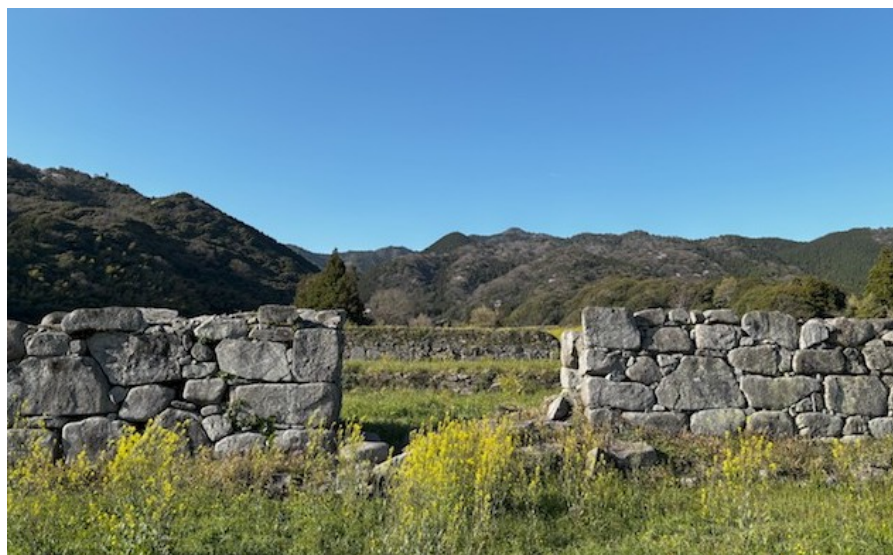
出土品の大半を占めるのは戦国時代の瓦です。大内氏の家紋「大内菱」とみられる文様を飾った軒平瓦も確認されており、大内氏ゆかりの遺跡であったことが伺い知れます。

家紋入りの瓦は従来、豊臣政権時代が最古とされており、大内氏の家紋入り瓦であれば全国最古の可能性があります。数百年地中に眠っていた凌雲寺。発掘調査の成果はさらにロマンを掻き立ててくれます。



凌雲寺の復元模型

復元模型は、吉敷地域文化振興協議会が徳山工業高等専門学校歴史意匠研究室に依頼したところ、江副 聖さんと佐野洗生さんが引き受け、中川明子教授の指導のもと令和6年度(2024)の卒業研究として製作されたものです。復元の考え方や製作方法など、卒業研究論文「国指定史跡大内氏遺跡附凌雲寺跡の3次元復元に関する研究」に詳しくまとめられています。



凌雲寺跡

凌雲寺は永正4年(1507)頃現在の山口市吉敷中尾の地に創建されたと伝えられています。

大内義興の戒名が「凌雲寺殿傑叟義秀」であることから、凌雲寺は義興の菩提寺であったとみられます。

創建に携わった臨済宗の僧「了庵桂悟」は大内氏が派遣した遣明船の正使として明に渡るため、山口に2度滞在しています。文明18年(1486)雪舟のアトリエ、天開図画楼を訪れ親交を深め、また、永正4年(1507)から同6年にかけ滞在した際には、他界して間もない雪舟の「山水図」(国宝)に賛を寄せています。

凌雲寺跡は昭和34年(1959)に国の史跡に指定されました。指定面積は36,963.91㎡(良城小学校グラウンドの約3倍)あります。寺跡内には凌雲寺開山塔と大内義興やその妻の墓と伝えられる宝篋印塔が残っています。

墓の背後に小祠があり安置されていた木造の阿弥陀如来像は、現在は山口市歴史民俗資料館に移管・展示されています。

凌雲寺跡の圧巻の景色は、台地の南端を東西に横切る長い石垣です。寺の惣門の遺構と伝わり、長さ約60m、高さ約3m、幅約2mの巨大な自然石を用いた豪壮雄大な石垣です。寺の位置地形などから有事に備えての城塞の役割を兼ねたものではないかと推定されます。

お問い合わせ

吉敷地域文化振興協議会

〒753-0816

山口市吉敷佐畑 1-4-1 吉敷地域交流センター内

電話 083-922-3344

国指定史跡大内氏遺跡附

凌雲寺跡



写真 山口市教育委員会提供

よみがえる凌雲寺



徳山工業高等専門学校
歴史意匠研究室 製作



国指定史跡範囲と模型復元範囲

平成 21（2009）年から山口市による凌雲寺跡の考古学的な発掘調査が始まり遺跡の詳細が徐々に明らかになっています。そのひとつとして、瓦や塼などの遺物から禅宗寺院の可能性が高いとされました。同じ禅宗寺院でありかつ大内氏の菩提寺である山口市の乗福寺を参考に復元できないか試みたのが本模型です。建物の配置は乗福寺を描いた紙本墨画淡彩乗福寺伽藍図から見てとれる禅宗寺院特有の七堂伽藍を元に推測復元しています。建物は禅宗様式であることを前提に県内の寺院（洞春寺観音堂，東光寺三門，龍福寺本堂など調査）を参考に推測復元しています。



本堂は、禅宗寺院に見られる構造や意匠を採用し、屋根は本瓦葺の入母屋造であったと推定して復元。



惣門は、南端に位置する巨大な石垣の開口部に収まる規模で本瓦葺の門を復元。



開山堂は、檜皮葺や柿葺などの植物性屋根材を用いた入母屋造の屋根構造で、梁間3間、桁行2間の縁側付の小規模な建物であったと推測し復元。

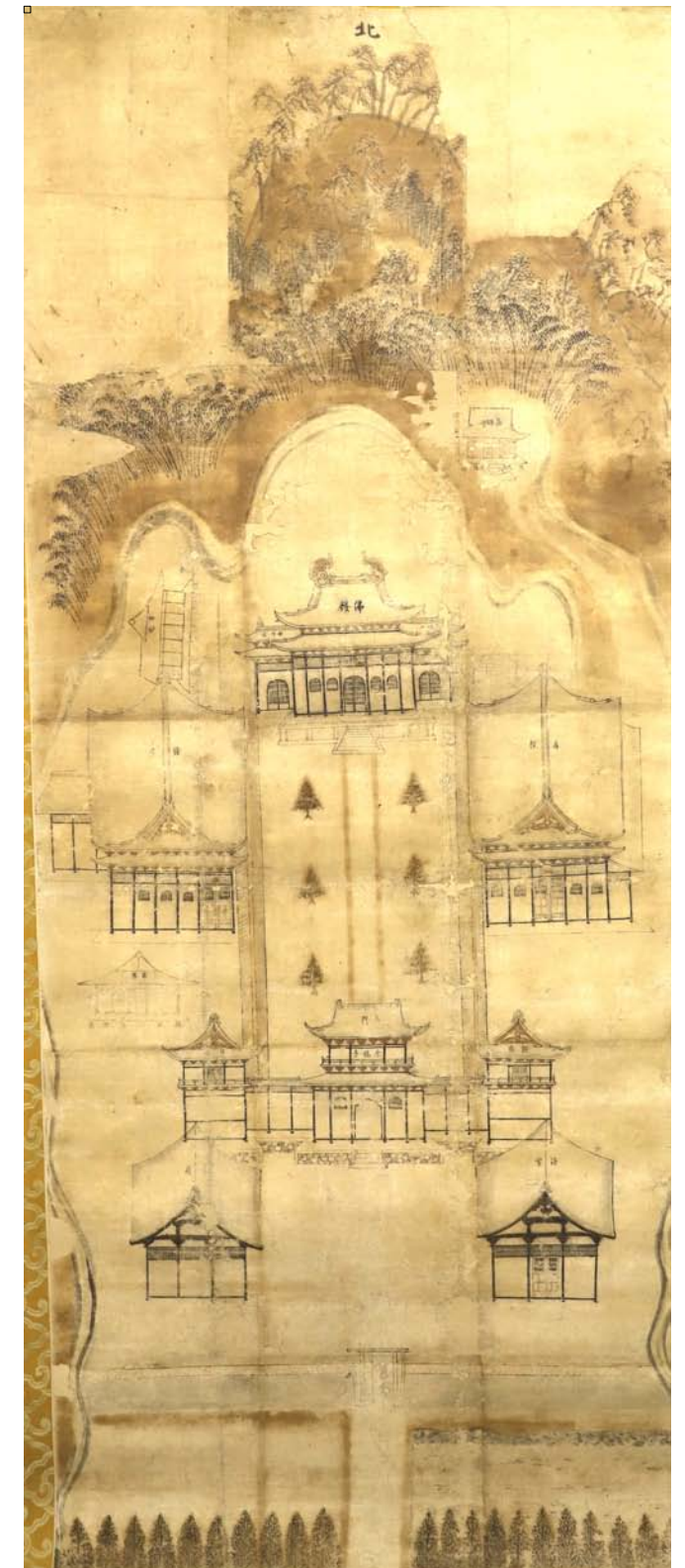


三門は、発掘調査ではその有無がはっきりしていないが、七堂伽藍では三門が配置されることを踏まえ、三門が存在していたとして復元。



付属建物は、七堂伽藍における一般的な伽藍配置に基づき付属建物が存在していたとし復元。

復元模型の製作：境内模型は、縦 150cm、横 91cm の 1/100 境内模型および 1/50 縮尺の開山堂模型を作成。製作手順は、3D モデリングソフト「Blender」で作成した 3D モデルを STL データに変換し、スライシングソフト「Creality Print」にインポートした後、3D プリンター（Creality の K1 FDM 3D プリンター・K1 MAX AI FDM 3D プリンター）を使用。



紙本墨画淡彩乗福寺伽藍図

山口市歴史民俗資料館提供
復元模型の配置は乗福寺の七堂伽藍を参考にしています。七堂伽藍とは、仏教寺院における建築物の配置のことで、禅宗様式では僧侶が座禅をする場所の僧堂、本尊を安置する仏堂、經典の購読や説法を行う法堂、台所である庫裏、三門、浴室、そして便所である東司の7つの建築物を総称して七堂伽藍と呼ばれています。